

各学年の実践

1年生の授業実践

地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習

<生活科：「がっこう だいすき」たんけん で みつけた ことを はなそう>

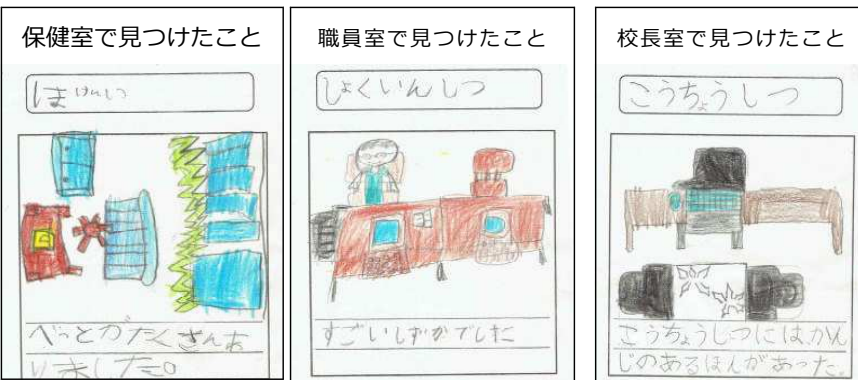
授業者のねらい：4月と5月に行った学校探検を、再度学校の「ひと」や「もの」に焦点を当てて、探検する。「みつけたよカード」にまとめることで、学校生活への期待感を高めたい。

導入 1学期の学校探検後に、「もう一回学校探検をやりたい」「もっと見たかった」という児童の声があった。児童の興味を大切にしながら、自分が興味をもった場所へ探検に行き、そこにあるものやその役割について調べたり、先生方に学校や仕事のことを聞いたりした。学校の施設の様子（もの）や、学校生活を支えている人々（ひと）を意識させるために、「ひと・もの・こと」のプレートを活用した。このことで、自分が担当する場所について着目すべき観点が明確になり、詳しく調べることができた。

探検 また、それぞれの場所にいる人に質問をしたり、中を見せてもらったりして、普段は見られないような秘密を見つけた児童は、教室に戻ってきて、とても楽しそうに報告しあっていた。これを発表活動につなげた。児童は、自分の担当する場所で見つけた「ひと・もの・こと」を「みつけたよカード」にまとめた。



学校探検の様子（配膳室）



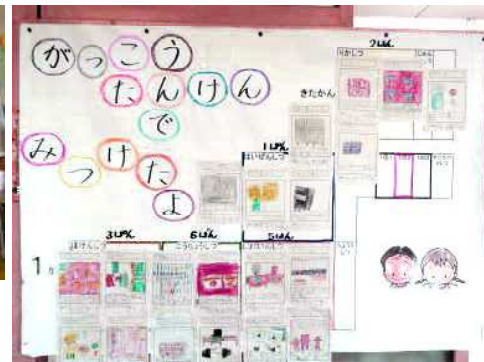
発表

T：いろいろなグループの発表を聞いて、初めて知ったよ、ということを発表してください。
 C：4班のブックランドの発表を聞いて、本が12000冊もあるなんてびっくりしました。
 C：ぼくも、たくさんあってびっくりしました。
 T：12000冊という数はね、尾張旭市の人がみんなで80000人いるのね。
 C：すご〜い！ たくさんあるんだね！
 T：他にありませんか？
 C：3班で、保健室の冷蔵庫にアクエリアスが入っているなんてびっくりしました。
 C：配膳室にエレベーターがあるなんて知らなかった。
 C：わたしも配膳室で、大きな冷蔵庫があるなんて知りませんでした。
 C：職員室に一人一台コンピュータがあるなんてびっくりしました。
 C：音楽のピアノが上手になるには、いっぱい練習することがわかりました。

事後 学校探検を通して、児童は学校にある様々なものに触れたり、担任以外の先生と話をしたり、他学年の学習の様子を見たりすることができた。今まで知らなかった学校のことが分かるようになり、児童も嬉しそうにしていた。また、「早く理科室で勉強したい」「図書室でたくさん本を借りてくるね」など、意欲的に楽しく学校生活を送ろうとする姿も見られた。



発表する児童の様子



「みつけたよカード」

地域に愛着を持ち、貢献できる子を育てる学習

<道徳：「お世話になっている人にかんしゃして」>

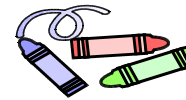
授業者のねらい：日頃からお世話になっている人が身近にいることを気付かせ、「ありがとうカード」に書き表すことによって、それらの人々に感謝する気持ちを持たせたい。

展開前段 私たちの道徳の中にある資料「お世話になっている人にかんしゃして」を使用し、特に地域の人にお世話になっていることに気付かせ、感謝する気持ちが芽生えるようにした。

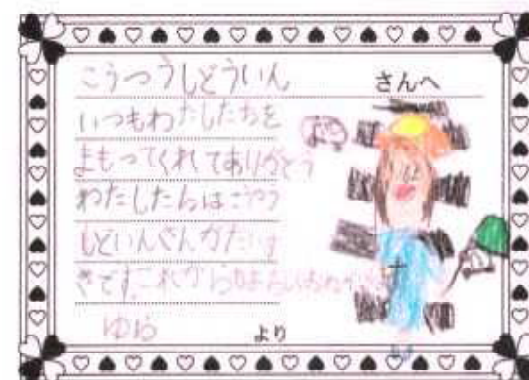
展開後段 また、日頃の生活場面のイラストを見ながら、自分たちの生活を振り返って感謝の気持ちを伝える活動をした。以下は、どのような場面でお世話になっているかの気付きを発表した様子の一部である。

T：絵を見て、地域でお世話になっている人について発表してください。
 C：公園をおそうじしてくれている人がいます。
 C：おまわりさんが道を教えてくれています。
 C：はいしゃさんが歯をみてくれています。
 T：みんなもこないだ歯科検診をしたね。その時に「校医さん」という学校のみんなの健康を守ってくれているお医者さんにみてもらったんですよ。
 C：ぼくがいつも行っているはいしゃさんだったよ。
 C：小さい子とお兄さんが手をつないでいます。
 C：あぶないから、おうだんほどうをいっしょにわたっているんだよ。
 T：そうですね。みんなが学校にくるときにもそういうお兄さんお姉さんが近くにいませんか？
 C：おせわががりさん！はんちょうさん！
 T：そうですね。みんなの安全を守るために他にもいろんな人がいますね。知っているかな？
 C：スクールガードさんといつもいっしょに帰っているよ。
 C：おうだんほどうに立ってくれているお婆さんがいるよ。
 T：たくさんの方がみんなの安全を守ってくれていますね。

まとめ 発表を終えて、自分がお世話になっている人に「ありがとう」を伝えようということで、「ありがとうカード」を書いた。地域のお世話になっている人へ日頃の感謝の気持ちを込めて、ていねいに書くよう声をかけると、似顔絵を書いたり自分の好きな絵を書いたりしながら一生懸命にカードを書いていた。



板書の様子



交通指導員さんへのありがとうカード



スクールガードさんへのありがとうカード

2年生の授業実践

地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習

<生活科：「大きくなあれ わたしの 野さい」・野さいをそだてよう>

授業者のねらい：農業体験のある地域の方に来ていただき、農作業をする姿を見せることで、野菜づくりの大変さと大切さを実感させるとともに、野菜づくりへも期待感を膨らませたい。

導入 生活科の授業で、どんな野菜を育てるかを話し合っていると、「うちでは、ナスをそだてているよ」「トマトもいいけど、ピーマンが好き」という声が聞かれたため、植木鉢ではミニトマト、ピーマン、ナスの中から好きな野菜を栽培することにした。

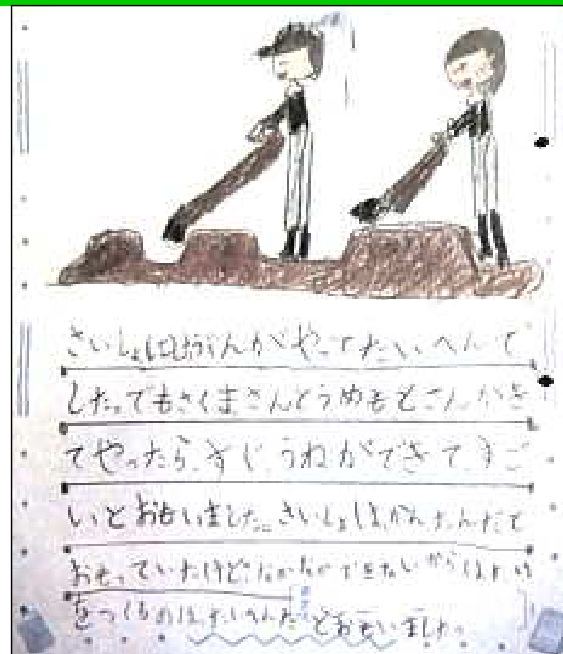
実演 学年園での畑作りに協力していただいたのは、学校近くに在住のご夫婦である。緑化ボランティアの方に、「畑を作りたいのだけれど…」と相談したところ、友人のご夫婦に連絡をしていただき、ゲストティーチャーとして来ていただけることになった。来ていただく前は、子ども達が学級園をスコップやクワを使って耕したが、なかなか思うようには耕すことができなかった。そこで、ゲストティーチャーに来ていただき、子ども達に耕す様子を見学させた。ゲストティーチャーは備中グワを使い、15分程で畝を完成した。子ども達からは、「めっちゃ早かった」「さすが！」「かみわざ!!」という声が挙がった。

発表 畝づくりの見学後に、感想を話し合った。

T：畝を作ってみて、気付いたことを発表しましょう。
 C：さいしょにじぶんがやってたいへんでした。かんたんだと思っていたけど、なかなかできないから、畑をつくるのはたいへんだと思いました。
 C：〇〇さんがつくったら、とても早くできました。
 C：さすが！と思いました。
 C：かみわざでした。
 T：ゲストティーチャーの〇〇さんが使った道具は何でしたか。
 C：びっちゅうグワです。ぼくたちがつかった、スコップでは、ぜんぜんだめでした。
 C：ざっくざっくほれました！
 C：15分で、うねがかんせい。びっちゅうグワでほったあと、クワで上をたいらにしていた。
 T：これからも、地域のプロに教わって、おいしいサツマイモを育てていきましょう。



畝づくりをするゲストティーチャー



子ども達の感想

地域に愛着を持ち、貢献できる子を育てる学習

<生活科：園児をフェスティバルに招待・保育園のライオンまつりへの参加>

授業者のねらい：1年生と保育園の園児、保護者をフェスティバルに招くことによって、様々な人々に喜んでもらうためにはどのようなことに注意すればよいかを考えさせたい。また、園児と交流することによって思いやりやいたわりの気持ちを育てたい。

話し合いの様子

時間	学習の流れ	教師の働き掛けと支援・留意点
10 (10)	1 本時の学習課題をつかむ。 (1) 前時の活動を振り返り、楽しかったことを発表する。 (2) 目当てをつかむ 小さい子にも、楽しんでもらうにはどうしたらよいかくふうを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの活動を振り返り、本時の活動に意欲を持たせる。 ○ 活動の様子がわかる写真を掲示する。 ○ 金曜日に1年生と園児を迎え入れることを伝え、児童の意欲を高める。
30 (40)	2 小さい子たちともっと楽しく遊ぶためにはどうしたらよいか考える。 (1) 小さい子たちが楽しくないのは、どんな時か考え、発表する。 ・ルールがわからないとき。 ・ゲームがむずかしいとき。 ・負けてばかりなとき ・待つ時間が長いとき (2) ワークシートに考えた工夫を書く。 (3) 班で友だちの考えを読み合い、よいと思った考えに赤鉛筆で印をつける。 (4) 考えを発表する。 ・字が読めないから、ルールをわかりやすく教えてあげるといいと思うな。 ・道具をもっと使いやすくなると思うな。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小さい子にとって、どんな時が楽しくないかを想起しやすいよう、具体的な事例を出す。 ○ 考えがすすまない児童には、昨年度参加したフェスティバルでうれしかったことを思い起こすように伝える。 ○ 机間観察しながら、なかなか書き出せない児童には、前時の活動を思い出させ工夫について考えさせる。 ○ タイマーで時間を計り、児童が読む時間を確保する。 ○ 子どもの発表を視点ごとに板書する。 ○ 班に限定されずクラス全員が行うことができる考えは、共有できるように話し合いを展開していく。
5 (45)	4 本時のまとめをする。	



班での話し合いの様子



園児にやさしく教える児童の様子



園児を楽しませている様子

交流 11月に1年生と保育園の園児を招いて、フェスティバルを行った。初めて小さい子の面倒を見ることになり、園児にも分かる説明の仕方や小さい子が楽しくなるような配慮の仕方を考え、優しく接することができた。

次に、12月には、保育園のライオン組(年長)が2年生と5年生を「ライオンまつり」に招いてくれた。園児を気遣いながら、楽しく交流をすることができた。



ライオンまつりの様子①



ライオンまつりの様子②

3年生の授業実践

地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習

＜総合・社会：おこしものづくりと火おこし体験＞

授業者のねらい：「おこしもの」の作り方を地域の方から教えてもらったり、地域の方と一緒に焼いて食べたりすることで、地域の伝統文化にふれさせたい。

おこしものづくり

初めに、ゲストティーチャーのアグリ生活保存会の方から、おこしものの由来について話をいただいた。次に、6グループでおこしものづくりをするときにはアグリの方に一人ずつついていただいた。1時間ほどできあがり、その場でできたもおこしものを砂糖醤油をつけて食べた。一つは、焼いて食べる用にとっておき、一つは持って帰って家族に味見してもらった。



「おこしもの」の説明を聞く様子

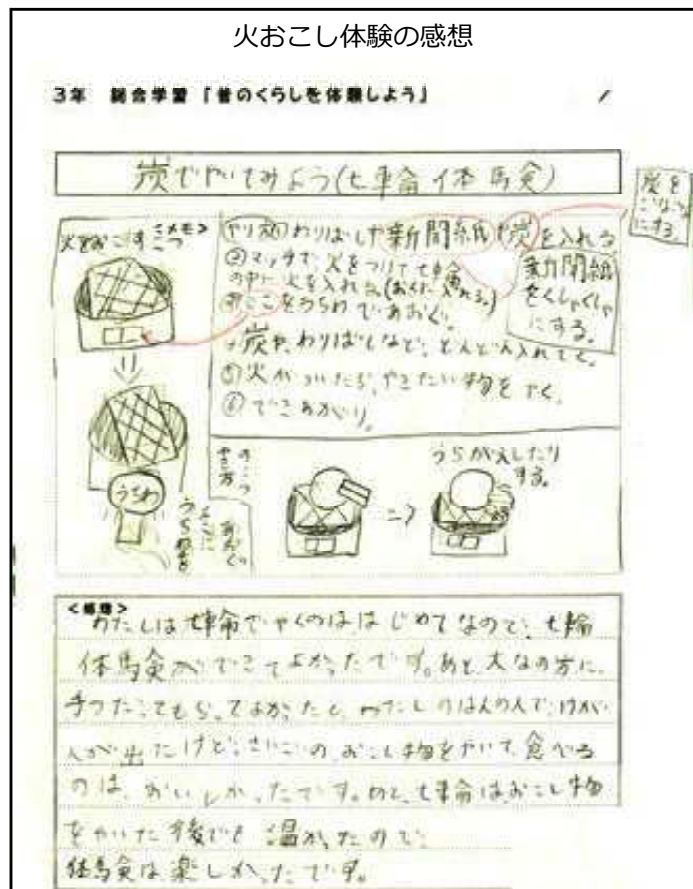
七輪を使って

社会科の「昔の暮らし」と関連して、七輪でおこしものを焼くことにした。その際、社会科ボランティア3名に手伝ってもらい、七輪でどうすればうまく火がつくかを教えてもらった。子ども達は、初めての火おこしに苦労していたが、社会科ボランティアに丁寧に教えてもらい、おこしものを焼くことができた。



火をおこす様子

事後におこしもの新聞を作り、作り方のこつやわかったことをまとめて教室掲示した。どの子も「すごくおいしかった、家でも作ってみたい」との感想を載せていた。ゲストティーチャーのアグリ生活保存会の方や手伝ってくださった社会科ボランティアの方々にもお礼の手紙を書き、写真とともに、冊子にして届けた。アグリ生活保存会の方や社会科ボランティアの方々も皆笑顔で、「とてもいい経験になりました」との感想をいただいた。



地域に愛着を持ち、貢献できる子を育てる学習

＜学活：地域のボランティア活動について考えよう＞

授業者のねらい：いつも地域の方にお世話になっていることに気付かせるとともに、地域に対して、子ども達でできるボランティアについて考えさせ、進んで人のために役に立つ活動ができるようにしたい。

導入 「お世話になっている地いきにたいして、何かできないかを考えよう」を課題として提案し、一人一人に自分達でできることを画用紙に書かせた。これを「ひと・もの・こと」に分類しながら、学級全体への話し合いへと進めていった。

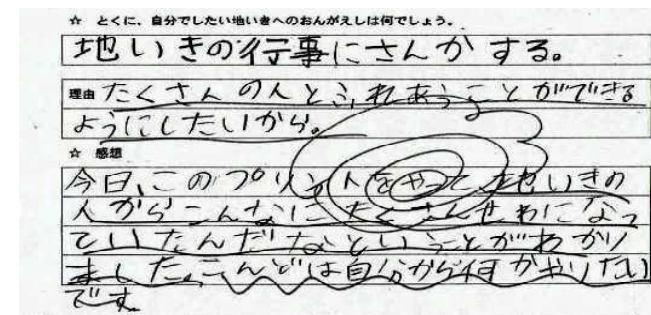
話し合い

- T：地域の人の中で、だれにお世話になっているかな？
- C：近所のおばさん
- C：スクールガードさん
- C：交通指導員さん
- C：友だちのお母さん、お父さん
- C：地域の人全員にお世話になっている。
- C：習い事の先生
- T：地域の人にしてもらってうれしかったことってないかな？
- C：けがをしたときに声をかけてもらった。
- C：お菓子や飲み物をもらった。
- C：転んだときに、ティッシュをもらった。
- C：スクールガードさんに好きな野菜を聞かれ、答えたらその場で野菜をもらった。
- C：相談にのってもらった。
- C：習字の先生に褒めてもらった。
- T：みんな地域の人にいろいろやってもらったね。では、地域の人に私たちは何かできないかな。書いたら画用紙に記入して、黒板に貼ろう。
- C：こちらから声をかける。
- C：保育園の子を遊んであげる。
- C：たくさんあいさつをする。
- C：スクールガードさんに「ありがとう」と言いたい。
- C：交通指導員さんに手紙を書く。
- C：ゴミ拾いや公園の落ち葉拾いをする。
- C：お祭りの準備を手伝う。
- T：いろいろな意見がでてきたね。この中から夏休みにやりたいことを1つ選んで、理由もつけて書こう。

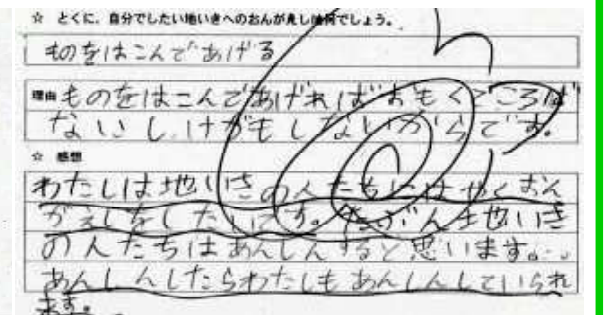


地域のためになることを書き出した黒板

ワークシートへの記述①



ワークシートへの記述②



事後指導 子ども達は、盆踊りに参加したり、敬老茶会のボランティアに応募したりしていた。また、学級園で育てたキュウリを青空市へ売りに行く手伝いを積極的にする姿が見られるようになった。

4年生の授業実践

地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習

<総合：防災について考えよう>

授業者のねらい：地域の防災に関する「ひと」や「もの」に着目し、調べたり話し合ったりすることで、防災意識を高めたい。

防災マップづくり

最初に、学校の中の防災設備(消火器、消火栓、救助袋、AED)を調べた。次に、通学路を中心に、瑞鳳小校区にある消火器やAED、110番の家を調べた。そして、調べた結果を地図の中にシールで示し、気付いたことや自分の意見を吹き出しカードを使って書き入れた。出来上がった防災マップは学年掲示板等に展示した。防災マップづくりを通して防災意識を高めることができた。



手作りの防災マップ

また、この成果を「瑞鳳小ふれあい子ども会議」で紹介し、「地域防災のあり方」を会議で話し合うきっかけ作りにもなった。

児童の意見

- ・ 防火水そうは庄南町に一番多くありました。
- ・ コンビニには必ずAEDがあることがわかった。コンビニ以外だとどこにあるのかな。
- ・ 110番の家が西山町内に9軒あった。校区全体では46軒あることがわかった。

防災倉庫の見学

地域の防災の学習の一環で、学校の中庭にある防災倉庫見学を計画した。自治会の担当者や市役所の方をゲストティーチャーに招き、教えてもらうこととなった。以下は、見学する前時の授業の様子の一部である。

- T：瑞鳳小学校には防災倉庫がいくつあるでしょう。
 C：3つ
 T：どこにあるか知っていますか。
 C：中庭にある。
 T：防災倉庫はなんのためにあるのでしょうか？予想してみよう。
 C：学校が火事になったときのため
 C：学校をまもるため
 C：火事や地震がおきたときに役立つものを入れておくため
 T：どんなものが入っているか予想してみましょう。
 C：ホース、消火器とか火を消す道具
 C：AED、ヘルメット、防災ずきん、酸素ボンベなど人を助ける道具
 C：水、ふとん、食料
 C：トイレ？

5月に自治会の方7名、市役所の方2名に来ていただき、説明をしていただいた。倉庫は誰が管理していて、何のためにあるのかという話から、中にある道具の使い方まで教えていただいた。子ども達は積極的にメモを取り意欲的に質問をしていた。子ども達が一番興味を持ったのは長期保存ができる防災用の飴である。その他にも実際に災害



質問をする子ども達

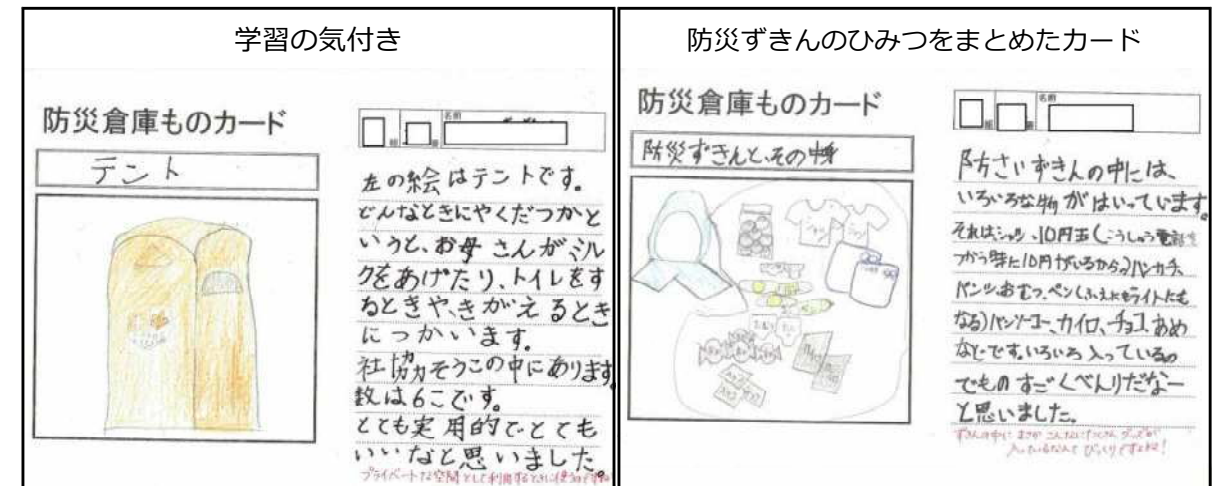


防災について聞く様子

テントとトイレを組み立ててもらい、さわってみたり、消火器体験をさせてもらったりして、体感しながら学習することができた。それを「防災倉庫ものカード」にまとめた。

児童の意見

- ・ テントやトイレまであっておどろいた。水を使わなくてもよいトイレだった。テントは授乳や着替えのときにも役立つと言っていた。
- ・ 災害のときには学校が避難所になるなんて初めて知った。300人くらいしかここで生活することができないと言っていた。家でそなえておくことが大切だと思った。
- ・ みんなが予想していたAEDは入っていなかった。
- ・ いろいろな種類の食料が入っていた。水を入れるだけで食べられるものや、缶の中にくっくらししたパンが入っているものがあった。どんな味がするのか気になった。
- ・ 消防団の勉強のときに習った土のう袋を初めて見た。矢田川が近いからたくさんあるのかな、と思った。



地域に愛着を持ち、貢献できる子を育てる学習

<図画工作：いろいろうつつて(版画)>

授業者のねらい：4年生ともなると、地域への関心も高まってくる。この時期に地域をモチーフとした版画づくりをすることによって、地域への愛着を育てたい。

導入 地域で活躍する人や参加したことがある行事を出し合い、これらをモチーフにすることにした。

構想 子ども達は、題材となる地域の「ひと・もの・こと」をよく観察し、下絵を描き、担任からのアドバイスを聞いていた。版画板に下絵をトレースして、版画の特長を生かしながら、彫っていた。

鑑賞 全員の作品を校内作品展で展示し、保護者や地域の方にも見てもらった。



版画に取り組む様子



スクールガード



棒の手をする子



太鼓をたたく人

5年生の授業実践

地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習

<総合：米作りをしよう>

授業者のねらい：地域の田であるどろんこ広場には、まだ自然が残されている。米作り体験をする中で、地域に残る自然に親しませるとも、地域の方との交流も深めたい。

事前学習 総合的な学習「米作りをしよう」をするにあたり、理科の「発芽と生長」「魚の誕生」と関連づけ、生き物の暮らしと田んぼの関わりについて話し合いをした。

T：瑞鳳小学校の周りで、どんな生き物がくらしていますか？
 C：この前体育館のところにタヌキがでたよ。
 C：どろんこ広場の田植えでたくさんヤゴがいました。
 T：ヤゴはトンボの幼虫だね。どろんこ広場以外でも見たことあるかな？
 C：学校のプールや矢田川にもいっぱいいます。トンボも飛んでいます。
 T：赤トンボの数が減っている原因は何だろう？
 C：イネを育てるときにつかう農薬が影響していると思います。
 C：田んぼのあとに家や店を建てているから、すむ場所が減っているんじゃないかな。
 T：田んぼがどんどん減っているんだね。そういうことを見た経験はあるかな？
 C：友達の家の近くで田んぼのあとに新しい家が建っていました。
 C：ずっと稲を育てていない田んぼもあるよ。
 T：明日の田植えでは、昔ながらの方法で田植えをします。昔の暮らしの苦労や、地域の環境についても考えられたらいいですね。

田植え体験 どろんこ広場の方々（ゲストティーチャー）のレクチャー後に、田植えを行った。地域の行事「田植えまつり」に参加した児童もいたが、初めて田んぼに入る児童も多く、田んぼの中での土の感触やにおい、さまざまな生き物に戸惑いながらも、田植えに一生懸命に取り組んでいた。



田植えの説明を聞いている様子



一列になって田植えをしている様子

- 田植えをして思ったことは、土がたまに冷たくて、気持ちいい感触、それにいろんな虫やカエルがいて、ああこれが自然だと感じられました。
- 田植えは、初めてなので、できるか心配でした。どろんこ広場のみなさんは、わたしたちが遅れているときに、まだ空いている場所に植えてくれたり、「ここがまだ空いているよ」と教えてくれました。
- 一歩下がった後、足あとを消して、地面を平らにするのが大変でした。最初に苗を投げるのが楽しかったです。お米ができるまでには、こんなに苦労するんだなと改めて思いました。
- 秋の収穫祭の稲を刈るとき、もち米をいっぱい刈って、1月のどんど焼きでおいしく食べたいです。

地域に愛着を持ち、貢献できる子を育てる学習

<総合：高齢者体験と福祉実践教室>

授業者のねらい：本地域には、「び・すけっと」という福祉関係の組織がある。この組織の方と連携、活用して、身近な福祉について考えさせたい。

高齢者体験

地域の「び・すけっと」の皆さんを外部講師に、高齢者体験・マタニティー体験をした。子ども達は足首、手首におもりをつけたり、肘や膝が思うように曲がらないようにプロテクターをつけたり、手袋やバイザーをつけたりして、高齢者が思うように動けないことを体験した。

福祉実践教室

地域の「び・すけっと」の皆さんを含め26名の外部講師の皆さんをお招きし、福祉実践教室を次のように行った。

1 目的 児童が障がい者やボランティアの方々から直接お話を聞き、日常生活の中で必要な車いすや点字、手話、ガイドヘルプなどを実際に体験することで、「障がい」の意味を学び、社会の中で「ともに生きる」ことを考える機会とする。

2 学習内容

時間	科目	場所	参加数
13:40~14:00	全体会	体育館	65名
14:10~15:00	1 車いす	体育館	13名
	2 点字	5-1	13名
	3 手話	5-2	13名
	4 ガイドヘルプ	多目的教室	13名
	5 要約筆記	理科室	13名
15:00~15:10	閉講式		

感想 児童からは、「高齢者体験をして、こんなに足が動きにくいとは思わなかった」や「手伝いましょうかという声ではなく、普通にあいさつをすることが障がい者の方にはうれしい言葉というのを初めて知った」など、高齢者や障がい者の立場に立った感想が多く見られた。



ブラインドウォークの様子



高齢者体験の様子



高齢者体験の様子



車いす体験の様子



手話体験の様子

6年生の授業実践

地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習

<社会：縄文のむらから古墳のくにへ>

授業者のねらい：学校の近くにある大塚古墳を活用したり、学芸員をゲストティーチャーとして招いたりすることで、歴史学習に興味を持たせ、学習を深めたい。

事前学習 古墳時代の学習にあわせて、大塚古墳の学習も行った。授業前には、砂場でミニ古墳づくりを2時間行った。子ども達は、「なぜ、こんなに大きな物を作ったのだろう」などの感想を持った。これを受け、次のような話し合いをした。

T：大塚古墳について知っていることを発表してみましょう。
 C：山のような形をしている。
 C：道沿いにある。
 C：家のようなものがあつたような気がする。
 T：行ったことがある人？
 C：（3人挙手）
 T：古墳祭りがあるでしょ？公民館がやっている行事で。その参加もいいですよ。
 C：（5人挙手）
 T：近くにあるけど、大塚古墳が何なのか分からない人？
 C：多数。（中には、どこにあるのかもはっきりしない児童もあり）
 T：来週は、大塚古墳に実際に行って、地域の古墳時代について調べてみましょう。そのときに、学芸員のお話もありますので、質問があつたら、どんどんしましょう。

見学 市役所の文化スポーツ課の担当者と学芸員にも同行していただき、見学前に印場大塚古墳の概略を説明していただいた。その説明の中には、この地域の豪族である「尾張氏」と印場大塚古墳とのかかわりの可能性にも触れていただいた。古墳のほかに、復元された天狗岩古墳や竪穴住居の見学もでき、学芸員に質問する子ども達の姿がみられ、疑問点や気付いたことをその場で確認できた。



見学のまとめをする様子

見学後 大塚古墳見学後、大塚古墳から分かったことを画用紙にまとめた。このまとめをもとに、次のような発表をし、分かったことや気付いたことを共有し合った。

T：大塚古墳の見学では、貴重な発見がいっぱいあつたね。その気付きを発表しましょう。
 C：大塚古墳は円墳でした。
 C：古墳の周りには埴輪が発見されたようでした。
 C：剣も発見されたようでしたが、今はどこにもないです。
 C：復元家屋の中に入ってみると、とても涼しかったです。
 C：私も同じで、中はひんやりしていました。
 C：中は意外と広く感じました。
 C：竪穴住居の真ん中では、火をたく場所があつたようでした。
 C：説明の中で、このあたりに力のある豪族がいたようです。
 T：その豪族は何氏といったかな？
 C：オワリ氏です。
 T：よく聞いていましたね。オワリって今でも聞くね。みんなが住んでいるのは？
 C：（全員で）尾張旭市。 → 黒板に漢字で「尾張氏」と書く。
 C：その漢字だったんだ。見たことあるよ。
 T：今でも使われるね。ほかにどこで使われるかな？
 C：瀬戸線の駅名にある「尾張瀬戸」
 C：ナンバーにある「尾張小牧」
 C：愛知県の尾張と三河
 T：いろいろあるね。今でも名前が残るくらい有力な豪族なんだね。



復元家屋見学の様子

地域に愛着を持ち、貢献できる子を育てる学習

<国語：学級討論会をしよう>

授業者のねらい：国語科では、討論やディベートはしばしば行われる。身近な「ひと」や「こと」をテーマに取り上げ、課題解決を図ることによって、話し合いのスキルを高めるとともに、地域への関心を高めるようにしたい。

テーマの設定 地域をテーマにして、身近なことをよりよくできないかという視点で考えることを伝えると、意欲的に話し合いを行い、テーマを設定することができた。話し合いの結果、

- ①「スクールガードをもっと増やすべきか」
- ②「児童館をもっと活用するために、おもちゃを増やすべきか」
- ③「地域にゴミ箱を設置すべきか」



という3つのテーマを設定した。討論会のテーマを設定してから、児童は地域をよく見るように変わってきた。

話し合いの下準備の時間では、登下校中に見てきたことや聞いてきたことを発表したり、インターネットで調べてきた全国の統計と自分の地域とを比べて討論会に参加するなど、よく観察し、調べて討論会に参加することができた。

討論会の実際 次のように討論会の授業を行った。

T：それでは「スクールガードをもっと増やすべきか」について討論会を行いましょ。 (中略)
 C：「町によってスクールガードさんの数に偏りがある」と言っていました、多い町から少ない町へ広げればよいのではないですか。
 C：広げなくても増やせば、もっと安全に登下校ができると思います。
 C：増やせばいいと言いましたが、今でも十分安全なのに、さらに増やしても、しっかり見ることができなくて、けが人が出たらどうしますか？
 C：どんなけがが増えるというのですか？
 C：近所の知り合いで話しているスクールガードさんが〇〇町には多くいて、そういった隙に車を止めていなかったり、しっかり見ていなかったりしていることがあります。
 C：だったら、班にいる人が注意をすればいいと思います。 (中略)
 C：〇〇町の僕たちが歩くところには、スクールガードさんが1人しかいないので、全ての町で増やす必要はなく、一か所を増やせばいいのではないですか。
 C：たしかにAさんの言った通りにすればいいと思いますが、スクールガードさんになってくれる人がいなければ、どうするのですか？ (中略)

討論会終了後

T：聞き手側から何か意見はありますか。
 C：お年寄りのスクールガードさんの体力の心配をしていましたが、多くのスクールガードの方はパターゴルフをされています。だから、体力のことは問題ではないと思います。



学級討論会の様子

さくら学級の授業実践

〈学級活動：「こうつうあんぜんについてかんがえよう」〉

授業者のねらい：自閉・情緒障がい学級の児童にとって、通学路で支援して下さる交通指導員やスクールガードは、大切な「ひと」である。本時の授業を通して、交通ルールを徹底するとともに通学路でお世話になる「ひと」を確認させたい。

安全指導の実際 通学路の登下校や下校後の交通安全のために地域の人々や施設がどのように関わっているかに加え、校内での安全な過ごし方にも意識を向けさせるよう考え、次のように授業を行った。

- T：これは何ですか。（PCの画面に写真を映し出す。）
 C：横断歩道。地下道。信号。…
 T：自分の歩く通学路のどこにあったか思い出しましょう。（絵地図を提示し、学校と自宅の場所、通学路を教える。）
 C：ここ。（指で指し示す。）
 T：通学路にはどんな人がいましたか。（PCの画面に写真を映し出す。）
 C：交通指導員さん。スクールガードさん。（それぞれの名称を教える。）
 T：交通指導員さんやスクールガードさんは何をしていますか。
 C：交通安全。
 T：今から教室で、安全に歩く練習をしましょう（道路、横断歩道の図を敷き、標識を置く）。
 TとC：手をつないで歩く。「止まれ」の標識の前で止まって左右の安全を確認させる。手を上げて横断歩道を渡る。（TはCの動きを支援する。）

事後指導 毎日学校の西門で交通指導をして下さっている交通指導員さんから話を聞くと、「指導の最中でも左右の確認をしない」「歩道からそのまま走ってわたる」児童もいると聞き、このことを踏まえて現地での指導に当たった。

本学級の児童は、母親が安全を考慮して、一緒に歩いて登校している。保護者と連絡を取り合い、安全な登下校の仕方を学ばせている。また、校内でも日常的に安全を意識させる目的で、「止まれ」の標識を教室の出入り口に置いている。習慣化するまで、「いったん止まって右左右」の確認を今後も心がけさせていく。



横断歩道をわたって下校する様子



教室で安全な歩き方を練習している様子

たんぽぽ学級の授業実践

〈社会：「身近な地域をもっと知ろう～川南保育園見学～」〉

授業者のねらい：昨年度、川南保育園が本校北館に仮移設してきたことから、交流をはじめている。今年度新園舎となったことを機会に、社会科の学習の一環として「身近な地域をもっと知ろう～川南保育園見学～」を実施し、さらに交流を深めたい。

事前指導

6年児童は、昨年度川南保育園で保育士体験を行ったので、保育園への関心も高く、見学への課題も多くのことを書くことができた。

川南保育園見学（5月）



見学の様子



説明を聞く様子

2人の児童は、真新しい保育園にうきうきしながら見学していた。児童は、職員に保育園の施設を案内してもらい、新しくできた2階の部屋や給食用のエレベーターなどを見て回った。特に6年児童は職員の話をもメモしたり質問したりしながら、しっかりと話を聞くことができた。

発表に向けた学習（7月）

4年児童



6年児童



プリントに添付した以外の写真も見せ、質問をして言葉を引き出しながら、下書きをさせた。同様にして小見出しも考えさせた。下書きはメモを写しただけであったため、朱書きを入れたり、個別指導をしたりしながら文章を作らせた。ワープロを使って清書し、これをもとに、交流クラスで発表した。



発表の様子

子どもの発表原稿

4年2組で、川南ほいくえんのほびょうをしました。ほびょうのまえにむれんしゅうを2かいやりました。よめないかんじによみがなをつけて、よめるようにれんしゅうをしました。なんかいもれんしゅうをするうちに、よめるようになってきました。れんしゅうをおわってからいよいよほんばんです。4年2組の人は、よみはじめたら、みんなずかにきいてくれました。11まいがんばってぜんぶよみました。